

令和7年（2025年）度行政評価シート

令和 7 年 6 月 20 日

評価者	教育文化財部長 小林 昭嗣
-----	---------------

○ 施策の概要

総合計画上の位置付け	分野 2-(1) 歴史環境	施策の方針 2-(1)-①文化財の保護
目標とするまちの姿	史跡などの文化財の保存が図られるとともに、市民等が触れることのできる形で活用や情報発信が積極的に行われています。	
主な取組	(1)文化財の保護及び継承体制の充実 有形・無形文化財、民俗文化財、史跡名勝天然記念物等の貴重な文化財を、後世に確実に引き継いでいくため、調査・研究の成果に基づき指定・登録を進めるとともに、適切な保存修理、整備等を実施します。また、出土品を含む貴重な文化財を適切に保存・活用するため、専門的な人材の確保や保管スペースの環境整備を進めます。 (2)史跡の公有地化、整備・管理 貴重な史跡を保護していくため、公有地化を進めるとともに、公開活用に向けた整備及び管理を進めます。 (3)情報発信の充実 市民や来訪者が文化財について理解が深められるよう、教育・観光等の関連施策とも連携して積極的な公開及び情報発信を行うとともに、鎌倉国宝館や鎌倉歴史文化交流館を核として、社寺や史跡など市内に所在する豊富な文化財や歴史的遺産をつなぎ、鎌倉のまち全体を博物館とするエコミュージアムの仕組みを構築し推進します。 (4)郷土芸能の保存及び育成に関する事業 市内における郷土芸能の伝承、保存、運営、後継者の育成を行い、優れた民俗文化財を次世代へ確実に継承するとともに、豊かな文化芸術教育の充実を図ります。	

1. 前年度(評価対象年度)の当該施策の目標

・有形、無形文化財の調査、指定を進めるとともに、指定文化財の保存修理事業を着実に進める。 ・史跡大町釈迦堂口遺跡の暫定整備、公開を行うほか、史跡北条氏常盤亭跡の防災対策工事に向けた詳細設計、史跡浄光明寺境内・冷泉為相墓の防災対策に向けた設計を行う。 ・国指定史跡鶴岡八幡宮境内の公有地化を行い、適切な保護を図る。 ・文化財の公開活用や情報発信を積極的に行い、市民等の文化財への理解を深める機会を広く創出していく。 ・来館者の満足度向上を目指し、鎌倉国宝館では特別展を6回、鎌倉歴史文化交流館では企画展を4回開催する。 ・各種イベントを開催する。 ・鎌倉市にふさわしい博物館事業については、コンパクトな市域に多くの歴史的遺産が展開する本市の特徴を十分に活かす鎌倉にふさわしい博物館構築に向けて、基本計画の策定を推進する。

2. 投入コスト

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事業費	331,978	310,541	440,206	380,213	525,421	
人件費	211,086	212,705	194,250	207,762	204,092	
総事業費	543,064	523,246	634,456	587,975	729,513	0

3. 施策の方針にひもづく事務事業とその評価結果

重点事業	整理番号	事業名	法定受託事務	事業費(千円)	人件費(千円)	総事業費(千円)	事業評価	貢献度	最終評価
重	教育-45	史跡環境整備事業		231,588	30,674	262,262	現状維持	A	現状維持
	教育-46	文化財調査・整備事業		97,562	67,022	164,584	現状維持	A	現状維持
	教育-47	文化財保存・修理助成事業		57,573	12,584	70,157	現状維持	A	現状維持
	教育-48	文化財公開活用事業		2,552	24,265	26,817	現状維持	A	現状維持
重	教育-49	鎌倉市にふさわしい博物館事業		253	7,865	8,118	改善・変更	A	改善・変更
	教育-50	鎌倉国宝館管理運営事業		77,648	34,807	112,455	拡充	A	拡充
	教育-51	鎌倉歴史文化交流館管理運営事業		58,245	26,875	85,120	拡充	A	拡充

4. 評価対象年度の主な実施内容

・鎌倉市指定有形文化財に絵画1件、考古資料1件を新たに指定するとともに、今後の指定に向けた調査、検討を進めた。

・史跡大町釈迦堂口遺跡の暫定公開に向けた整備、史跡北条氏常盤亭跡の崩落対策詳細設計、史跡浄光明寺境内・冷泉為相墓の崩落対策基本設計の実施など、史跡の保存及び公開活用に向けた取組を進めた。

・史跡鶴岡八幡宮境内の公有地化を行った。

・鎌倉郷土芸能大会、遺跡調査研究発表会、遺跡調査速報展、発掘調査現地説明会を開催するとともに、発掘調査時の写真資料や調査報告書をデジタル化し、インターネット上で公開するなど、文化財の公開活用と情報発信を進めた。

・鎌倉国宝館は6回の特別展、鎌倉歴史文化交流館では4回の企画展を開催した他、各館のX(旧Twitter)や鎌倉市のline及びfacebookを利用した周知を行った。

・鎌倉歴史文化交流館では企画展に合わせた講演会や市民団体との協働によるイベント、定期的な子供向けのワークショップ等を実施した。

・鎌倉市にふさわしい博物館事業については、基本計画の策定にむけて素案を作成し、鎌倉市にふさわしい博物館基本計画等策定委員会に諮った。

※実施できなかった事業とその理由

なし

5. 成果指標

成果指標①		公有地化対象史跡の公有地の割合						出典	所管課調べ	
	令和元年度	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位	備考
初期値	59.1	目標値	59.1	59.2	59.2	59.2	59.3	59.3	%	
		実績値	59	59.2	59.2	59.2	61.4			
		達成率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	103.5%		%	

成果指標②		指定文化財の数 (鎌倉市SDGs未来都市計画 指標)						出典	所管課調べ	
	令和元年度	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位	備考
初期値	610	目標値	611	614	617	620	623	626	件	
		実績値	609	607	608	608	608			
		達成率	99.7%	98.9%	98.5%	98.1%	97.6%		%	

成果指標③		鎌倉国宝館来館者の満足度						出典	所管課調べ	
	令和2年度	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位	備考
初期値	89.0	目標値	90.0	90.0	91.0	92.0	93.0	94.0	%	各展覧会ごとに実施するアンケート結果の集計 令和2年度アンケート結果を元に初期値、目標値を設定
		実績値	89.0	91.3	86.8	92.0	80.0			
		達成率	99.0%	101.4%	96.0%	100.0%	86.0%		%	

成果指標④		鎌倉歴史文化交流館来館者の満足度						出典	所管課調べ	
	令和2年度	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位	備考
初期値	89.0	目標値	90.0	90.0	91.0	92.0	93.0	94.0	%	入館者を実施している任意のアンケート結果の集計 令和2年度アンケート結果を元に初期値、目標値を設定
		実績値	89.0	90.6	92.4	91.7	94.7			
		達成率	99.0%	100.7%	101.5%	99.7%	101.8%		%	

6. 「施策の方針の成果指標」の達成状況等を踏まえた施策の達成状況の分析

・指定文化財の数は、新たに市指定文化財を2件指定したが、国指定文化財が市外に移るケースがあったため、総数に変化はなかった。達成率は100%を下回っているが、文化財の新規指定は進んでいる。

・史跡鶴岡八幡宮境内にある民有地の公有地化を行ったことにより、公有地化率が上がった。

・これらの施策を着実に進めることにより、鎌倉市内に所在する文化財や歴史的遺産を保護し、未来へ確実に継承することができている。

・鎌倉歴史文化交流館の満足度は令和5年度から3%上昇し、開館以来最も高い満足度となった。

・鎌倉国宝館の満足度は令和6年度の目標値には至らなかった。原因としては、電子申請(e-kanagawa)によるアンケート実施に係る周知が不足しており十分な回答数が取得できなかった点が大きく、過去の実績値との比較も難しくなっている。今後は満足度の向上とあわせてアンケート回収率の向上も目指していく。

7. 主な実施内容と施策の達成状況の分析を踏まえた評価

※主な実施内容と目標とするまちの姿の関係(達成状況とその理由)

「施策の方針にひもづく事務事業とその評価結果」における貢献度の分析

・鎌倉市指定文化財を新たに2件指定したこと、また、史跡の公有地化や、史跡の維持管理、防災対策工事等を適切に実施したことにより、文化財の保護が着実に進捗していると考えられる。

・郷土芸能大会、遺跡調査研究発表会、遺跡調査速報展、発掘調査現地見学会、小中学校向けの出前授業の開催などにより、文化財に親しみ、理解する機会を創出することができた。

・発掘調査時の写真資料や発掘調査報告書のデジタル化を進め、調査報告書はインターネット上での閲覧を可能にするなど、文化財の情報発信を進めることができた。

・鎌倉歴史文化交流館では「北条氏150年 栄華の果てー鎌倉幕府滅亡ー」展や「女学生がみた近代の鎌倉」展などの企画展を4回開催し、鎌倉の歴史や文化に関連する最新の成果を紹介したことや、「発掘調査速報」展やワークショップ等のイベントを通じ、子供から大人までが鎌倉市内の文化財に親しむ機会を創出したことで、来館者の満足度を向上させることができた。

・鎌倉国宝館は、「鎌倉旧国宝展ーこれまでの国宝、これからの国宝ー」や「氏家浮世絵コレクション財団設立50周年記念特別展 集結！北斎のエネルギーー肉筆浮世絵の殿堂ー」など特別展を6回開催した。入館者数は北条氏展を実施した令和4年度を除き、令和元年度以降で最高であり、展示を通じて、鎌倉の文化財の魅力を広く知っていただくことができた。特に「鎌倉旧国宝展」の特集展示「鎌倉の伝運慶仏」は、県立金沢文庫と横須賀美術館との連携によって効果的な周知ができ、特別解説やメディア取材の依頼も受ける中で、国宝館について広報することができた。

8. 今後の方向性

・文化財の調査・研究、指定及び修理等を実施し、適切な保存と公開活用を進めていく。

・史跡指定地の公有地化や防災対策工事、日常的な維持管理と環境整備を実施し、適切な保存と公開活用を進めていく。

・博物館来館者のさらなる満足度の向上を目指して、今後もSNSなどを活用した情報発信を積極的に行うとともに、新しい展示手法を取入れた展覧会の実施、積極的なイベントの開催を通じて、来館者のニーズに応じたさらに魅力的な博物館活動を行っていく。

・鎌倉市にふさわしい博物館事業については、既存2館を強化しつつ、デジタル化やフィールドワークによって市域全体を博物館に見立てた、真に鎌倉に相応しい博物館のあり方を再検討しながら、基本計画の策定を進めていく。

9. 今年度(評価年度)の目標

・有形、無形文化財の調査、指定を進めるとともに、指定文化財の保存修理事業を着実に進める。

・史跡大町釈迦堂口遺跡の暫定整備、公開を行うほか、史跡北条氏常盤亭跡の防災対策工事、史跡浄光寺境内・冷泉為相墓の防災対策に向けた詳細設計を行う。

・文化財の公開活用、情報発信を積極的に行い、市民等の文化財への理解を深める機会を広く創出していく。

・来館者の満足度向上を目指し、鎌倉国宝館では特別展を6回、鎌倉歴史文化交流館では企画展を4回開催する。

・各種イベントを開催する。

・鎌倉市にふさわしい博物館事業については、コンパクトな市域に多くの歴史的遺産が展開する本市の特徴を十分に活かす鎌倉にふさわしい博物館構築に向けて、基本計画の策定を推進する。